

# 全ての人が子育てを 応援するまちに――



小牧 希美さん、桜久さん

## 子育てには さまざまな負担感が――

子育ては多くの喜びをもたらしますが、次のアンケート結果が示すとおり、さまざまな負担感も伴います。

**Q** 子育て(家事・育児)に関して、負担に思うことは何ですか？

複数回答可

子育てに出費がかさむ	55.6%
自分の自由な時間が持てない	46.0%
子育てによる精神的疲れが大きい	43.1%
子育てによる身体の疲れが大きい	42.6%
子どもが病気の時	33.0%
仕事が十分にできない	16.3%
夫婦で楽しむ(過ごす)時間がない	16.3%
負担に思うことは特にない	8.7%
子育ての大変さを身近な人が理解してくれない	6.9%
その他	1.6%

資料：令和2年度少子化に関する国際意識調査

保護者などが感じる負担はそれぞれ異なりますが、増加する虐待件数や子どもの貧困などの問題もあることから、子育てを社会全体で支える必要性が高まっています。このような背景の下、本市および関係団体は全力で「こどもたち」を応援することを宣言しました。

## ～こどもまんなか 応援サポーター宣言～

子どもや子育て中の皆さんが気兼ねなく支援制度やサービスを利用できるよう、あらゆる場で、年齢・性別を問わず全ての人が、子育てを応援する社会の実現を目指して取り組んでいます。



こども部(左から)  
甲斐 柚花 技師、田原 董 技師

います。これらの現状を踏まえながら、本市では、育児や保育に関する経済的負担や仕事との両立による時間的・精神的負担の軽減を図るための※支援を行っています。

※本市の子育て支援策の詳細は、本紙10月号で特集。合わせて一読ください。

また、市内では子育て支援センターや子育てサークル、子育て支援団体など、子育て世代に寄り添った活動も活発に行われています。支援が充実する一方で、子育てに負担を感じながらも周りに頼ることに躊躇し

て、助けを求める一步を踏み出せない人もいる現状があります。

今回の特集は、子育て期間中で特に負担が大きいといわれる乳幼児期に焦点を当て、当事者や支援団体の声を聞き、専門家にインタビューを行いました。本特集により、子育て中の人もそうでない人も現状を知ってもらい、地域全体で子どもを育てていくために自分に何ができるか考えるきっかけになることを願っています。

◎問い合わせ 秘書広報課  
☎ 23-13174

奇跡の連続で生まれてくる命。命がけの出産を経てやっと会えた赤ちゃんを抱いたとき、この上ない幸せを感じるもの。

愛おしい我が子の育児は、2・3時間おきの授乳やおむつ替え、夜泣きをすれば泣き止むまであやすなど、小さな命を守るため毎日24時間必死で、悩み、時にはつらいと感じることもあるでしょう。

小牧希美さん(下川東在住)は、9月に次男の桜久さんを出産し、現在育児休暇中です。夫の祐介さんは育児に積極的ですが、起業して日が浅く、夜遅くに帰

宅することもしばしば。保育園から帰宅した2歳の長男・桜史郎さんと生後間もない桜久さんを見ながら家事をこなすことは困難で、市内に暮らす母親が頻繁に手助けに来ています。サポートを心強く思う一方で、「日常的に親へ大きな負担をかけてしまっている」という悩みを抱えながらも日々育児に向き合っています。

減り続ける日本の出生数。少子化は未婚率の上昇をはじめ、さまざまな要因がありますが、国は母親に育児が集中する「ワンオペ育児」など社会全体の構造・意識を変える必要があるとして



ほっとサロン、こどもにもママにもやさしい時間を  
小林隆子さん

### ポジティブな気持ちで育児ができるお手伝いを—

自身の子育て中に、友人と育児の情報交換をする貴重な時間でも、子どもが騒ぐと周囲の目が気になってしまう状況に窮屈さを感じ「仕切られたスペースで気兼ねなく話ができる居場所を作りたい」との思いで、本団体を設立しました。

活動は月2回程度、市内の各会場で、親子体操やみそづくりなど、利用してみたい講座を企画し開催。市外から転入してきた人も気軽に参加できるようSNSで情報発信し、オンラインで申し込みができるウェブサイトも運営しています。

子育て奮闘中は自信をなくすことも多いですが、活動に参加した人がスタッフや他の利用者さんとの何気ない会話で、今の自分を肯定するきっかけにしてほしいと思っています。設立して10年、利用者をはじめ“想い”に共鳴した人から「自分の地区でも同じような場所を作りたい」と相談されることもあり、優しさが社会に循環しているようでうれしく思います。



☎ 090-8357-0043 (小林)



子育てサロンあいあい  
本郷真基さん

### みんなで話をすることで心が開放される場所を—

助産師や心理士、保育士などが専門性や子育て経験を生かし、アットホームな雰囲気や保護者や子どもの成長に寄り添った活動を行っています。

活動は週2回、県営都北団地集会所を開放し、親子が好きな時間に来て遊んだり、ランチ会や勉強会などのイベントに参加したり、利用者同士交流しながらも思い思い自由に過ごせるようにして、スタッフは専門的な相談やケアにも応じています。

子どもが小さいうちは、家に閉じこもりがちになり孤独を感じてしまうこともあります。利用者さんの中には「大人と話せるのがうれしい」「思い切って来てみたら子育てが楽になった」と喜ぶ人もいて、スタッフや他の利用者さんと話することで心が軽くなっていく様子を見るとうれしくなります。話すのが苦手な人や心や身体がづらい人のために、電話相談にも応じています。助け合いながら、一緒に楽しく子育てしましょう。



☎ 090-9781-5327 (本郷)



助産師による子育て応援団「五華」  
(左から)濱松 美保 さん/  
上原 えりこ さん/西迫 佳恵 さん

### いろいろな人とつながり、みんなで子育て

約10年前、「一人で悩んでいるママに寄り添い、育児の不安を軽減したい」との思いから助産師5人で本団体を結成し、本業との「二足のわらじ」で育児サークルの活動を始めました。今では、栄養士や保育士、理学療法士などの皆さんからも取り組みの趣旨に賛同を得て、地域ぐるみで専門性を生かした育児支援を行うとともに、仲間づくりの場としても喜んでもらっていると感じています。

活動は月に1回、赤ちゃんと一緒に楽しめる音楽会や親子コミュニケーション講座、産後ケア、育児相談、親子遊びなどを市内の各会場で開催。また、音楽家や歯科衛生士などの利用者さんが自らの専門性を生かした講座を行うなど、活動の幅が広がっています。育児中の不安や悩み、健康管理、家族のことなどの相談から、誰かの話に耳を傾けるだけなど、「五華」での過ごし方は人それぞれ。みんなで輪になって子育てしましょう。



☎ 090-5674-3118 (上原)



子

# 子育てを応援する

# 人たちがいます

市内には、子育てを応援する施設やサークル、団体などが数多くあります。「全力でパパやママをサポートしたい」思いを共にする皆さんに話を聞きました。

子育て世代活動支援センター おれぴか  
(子育て支援センター)  
センター長 児玉 恵子 さん

### 利用者の皆さんが甘えられる場所として—



平成30年4月に中心市街地中核施設Mallmall内に開設した子育て世代活動支援センター「おれぴか」。今年9月には来館者が40万人に達するなど、子育て世代の「憩いの場」として親しまれています。「利用者さんが、少しでも甘えられる時間を過ごせるように」と語るのは、センター長として尽力している児玉恵子さん。利用者から「家族にも話せない悩み事が相談できる」ほどの信頼が寄せられるまで、親身に寄り添ってきました。子育ての悩みはミルクや睡眠、トイレ、保育園・幼稚園の選択など、多岐にわたります。

市内には、子育てを応援する施設やサークル、団体などが数多くあります。「全力でパパやママをサポートしたい」思いを共にする皆さんに話を聞きました。

☎ 36-5858



### 大家族で楽しく子育て

川畑 清香さん・文太さん(依都さん・1歳)  
ほか家族の皆さん

祖父母の跡を継ぎ、和牛農家をしています。日頃から両親や祖父母がそばで子育てを支えてくれる安心感は、大家族ならではのです。また、時には和牛ヘルパーに牛の世話をお願いして家族旅行なども楽しんでいます。

### 安心して子育てできる職場環境

宮原 玲奈さん  
(紅蘭さん・9歳、蒼蒼さん・6歳、瑠杏さん・4歳)

育児や介護など誰しも大変な時期がありますが、互いに仕事をフォローし合える職場なので安心して子育てができています。誰かが大変な時は私も支える側になって恩返ししたいです。



### 愛情に限度はありません 内山 奈々江さん(孫さんら)

職場で親しくしていた子たちがママになったことがきっかけで、仕事と子育ての両立を何とかサポートしたいと思いました。今では悩みを聴いたり、外出時には一時的に子どもを預かったり、実の娘や孫と同じようにかわいがっています。



### 安心して利用できる場所がある

竹下 歩さん(芭さん・2歳、旺さん・1歳)

ぷれびかには赤ちゃんコーナーがあるので、上の子が乳児のときから安心して利用しています。先生たちに下の子を見てもらっている間、上の子とゆっくり接する時間を作れるのでありがたいです。



### 子育てしやすい未来に向けて

南九州大学人間発達学部子ども教育学科4年  
(左から)清原 綾乃さん、佐藤 美咲さん、  
桐野 恋歌さん

大学で「こどもまんなか都城」をテーマに、子育てしやすい未来を作るためのアイデアを考えてきました。デジタル技術を活用することで、今より気兼ねなく子育て支援を受けることができると思います。卒業後は、生まれ育った都城で子どもや保護者に寄り添える児童指導員や保育士になりたいです。



### ママ友の共感が支えです

川辺 佳奈子さん  
(一晴さん・6カ月)

埼玉から移住し初めての育児で不安もありましたが、ぷれびかで出会った先輩ママや同じ月齢の赤ちゃんがいるママと悩みを共有して、気分転換しています。

## みやこのじょうの子育て事情は？

子育て中の皆さんや子育ての先輩などにインタビューを行いました。子育てに関する考え方も多様化する昨今、幅広い人たちの声を聞いてみませんか。



### 参加することでつながる人の輪

谷川 梓さん(斗哉さん・8カ月)

大阪から移住し、子育てに不安でしたが、近所の保育園が開く相談会で子育てサークルの活動を知りました。参加してみると、知り合いが増えるだけでなく、スタッフや利用者さんと話すことで息抜きや情報交換の場にもなっているので、いろんな人に紹介しています。



### まちの人の優しい声掛けに救われています

小牧 祐介さん・希美さん(桜史郎さん・2歳、桜久さん・1カ月)



自己主張が激しくなる“イヤイヤ期”の長男との外出。道ですれ違う人が声を掛けてくれたり、病院の待ち時間に息子をあやしてくれたり、周囲の皆さんの心遣いを感じるたびに気持ちが楽になります。

藤高 未紗さん 株式会社フジタデザイン

### 子どもたちの成長と仕事の成功、共に歩む

10数年前、離婚を機に働いていた会社を辞めて宮崎市内のデザイン学校に通い始めました。当時、子どもは3歳と1歳でしたが、両親や周囲の協力があって挑戦できたことが今につながっているのので恩返ししていきたいです。現在は会社

の代表としてスタッフ8人を率いる立場。仕事に励みながら子どもとの時間を大切にしてきた経験から、休みを取りやすい社風やリモートワークができる体制で、スタッフが家族や自分の時間を大事にしながら働けるようにしています。



松下 正儀さん 霧島酒造株式会社

### 育児休暇により、子どもの成長の過程に立ち会えた

昨年12月に双子の男の子を授かりました。初めての育児で双子を育てることに対し夫婦ともに大きな不安があったことや、育休取得経験がある先輩男性社員の後押しもあり、思い切って“半年間”の育児休暇を取得しました。成長の早い

新生児期。育児休暇のおかげで息子たちが初めてハイハイやおすわりをする瞬間に立ち会う“かけがえのない経験”ができました。子育ては毎日が慌ただしく睡眠時間が取れないこともあり苦労も多いですが、夫婦で頑張っています。





①ぶれびか、②山之口地域子育て支援センター、③東部地域子育て支援センター エンゼル、④⑤保健センター

# 子育ての輪を広げる

時代とともに変化する家族の形や子育てのスタイル。正解が無いからこそ誰もが迷い悩むのが「子育て」なのかもしれません。この時代の子育てに必要な視点とはどのようなものなのでしょうか。それぞれの立場から子育てに向き合う2人にインタビューを行いました。

市では、Mallmall内にある保健センターで乳幼児健康診査などを実施するとともに、市内各地区にある子育て支援センターでのサポートやファミリー・サポート・センター、病児・病後児保育の利用助成などを行っています。それぞれに合ったサービスをぜひ活用ください。



井上 志保 副課長  
保健センター

最近では、赤ちゃん健康相談への父親の参加率が高まるなど、育児に対する意識の変化を実感しています。一方で、子育てにさまざまな選択肢があるが故に、迷いや不安を抱えることもあるかと思えます。保健センターでは産前・産後サポートなど、各家庭の状況に応じた子育て支援に取り組んでいます。

保健センター ☎36-5661

## ●子育て支援センター

親子の交流や子育て相談、催しなどを通して子育てを支援する施設。本紙では、毎月の行事などを「子育て支援センター 今月のオススメ行事」で紹介。今月は17ページに掲載しています。



## ●ファミリー・サポート・センター

子どもの送迎や預かりなどを行う事業。市が利用料の一部を助成していて、利用会員数・活動件数ともに年々増加しています。



## ●病児・病後児保育

体調不良の子どもの保護者が就労などで保育できない際に、一時的に保育する制度。市では、今年10月から利用料の助成を開始しました。

※子育て関連サービスについて詳しくは、都城市子育て応援総合サイト「はびみやこんじょ」を確認ください



思いよ届け  
全ての人が子育てを  
応援するまちに

子育てに迷った時。ただ誰かに話を聞いてもらいたい時。このまちにはたくさんの居場所とたくさんの方々がいます。一歩踏み出してみませんか。もっと周りの人を頼ってみませんか。子どもの一番近くにいるあなたが笑顔でいられること。それがこのまちの願いです。

あなたの周りに、子育て中の人はいませんか。まずは、目の前にいる誰かに手を差し伸べてみませんか。あなたの優しさが誰かを笑顔にしていく。そんなまを一緒に作りませんか。

未来を担う子どもたちは、このまちの「宝」。どうか、私たち一人一人の優しさで子どもたちの笑顔を守るためにありますように。

## 支え合って助け合って子育て

家族形態が多様化し、家庭ごとに支援ニーズが異なる現代では、子どもやその家庭と周りにいる人たちがつながり、必要な時に必要な支援へ手が届くことが求められます。一方で、支援する側とされる側が二極化し、支援する側が負担を感じたり、支援される側が心苦しさを感じたりすることのない社会をつくっていく視点も必要です。

子育てが大変なときは、行政や地域の支援を頼るのはもちろんですが、パートナーや家族とお互いの状況や子育てについての価値観を話し合うことも大切です。仕事などさまざまな事情で子どもと接する時間が十分に取れないこ

とに負い目を感じる人もいますが、その必要はありません。大切なのは一緒にいる時間の長さではなく過ごし方です。子どもは親をよく見ているから、向き合っていれば思いは伝わります。同時に、保育園などの先生や地域の人など親以外の大人とつながることで子どもは充足感を得られます。

幼少期の家族や社会の在り方は、大人になったときの考え方や価値観の形成に大きく影響を与えます。次の世代のためにも、子どもたちの目に映る家族像・社会像がより良いものであるようにまち全体で子育てに取り組んでいきましょう。



南九州大学人間発達学部  
子ども教育学科准教授  
藤本 朋美 さん

## 「子育て」は個も育てる 一緒に成長しましょう

かつては「名付け親」「育ての親」などと呼ばれる人が地域にいて、みんなで子どもを育てる雰囲気がありましたが、現代ではそれが希薄になっているように感じます。

一方で、働きながら子育てをする保護者にとっては、時代とともにさまざまな支援サービスが充実してきました。ただし保護者目線でのみの施策ではなく、子ども目線で、子どもの幸せを願う視点の施策になっているかが重要だと考えています。子育てでは、何ごとにも「子どもの幸せ」という軸がぶれてはいけません。ただ、子育ての免許や資格なんて誰も持っていませんし、マニユア

ルもありません。子育ては、子どもの成長を願い育てながらも、保護者自身の個の成長でもあります。

また、子育てをしている当事者だけでなく、子育てをしていない人も「自分には無関係」ではなく、子どもや子育て世帯のことを「知ろう」とすることが大切です。自ら知ろうとすることで「気づき」が生まれ、それが広がることで少しずつ社会は変わっていきます。こども家庭庁が発足し「こどもまんなか社会」がうたわれる今、子どもや子育て世帯に対して温かいまなざしが社会全体に広がるようにみんなで考えてみませんか。



相愛保育園  
園長  
高木 かおる さん